

病態解析学領域 I		選 択	春・秋学期	1 単位
担当研究分野	病態生理学、組織再生学、生化学、毒性学			
到達目標・目的	本講義では、各種疾患の病態理解を基盤として、生命現象と疾病との関係を多角的に捉える力を養うとともに、医学・薬学・生命科学の横断的視点から統合的に考察する能力の習得を目的とする。さらに、化学物質、放射性同位体 (RI) をふくめた医薬品などが生体に及ぼす影響、ならびにそれらの解析手法や創薬への応用について概観し、科学的根拠に基づいて課題を見出し、論理的に思考・判断できる基礎的能力を養う。			
受講心得・準備学習等	事前配付資料を読み疑問点を整理する。 生体を構成するタンパク質や遺伝子の役割、疾患の治療について理解を深めることを心がける。 取り上げる疾患の概略をつかんでおくといよい。			
事後学習・復習等	配付資料と講義内容をもとに自力で学修を進めることにより理解を深める。 各疾患の病態、発症機序を復習するとともに、疾患に関する現在のトピックや問題点を再確認しておくこと。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義・演習			
実施日	時間	実施方法	研究分野	担当者	内 容
6/9 (火)	90 分 10:45～	対面 209	病態生理学： 内科学	清水	内科学と腫瘍生物学の関連について論じる。
6/16 (火)	90 分 10:45～	対面 209	病態生理学： 内科学	武藤	造血器疾患・自己免疫疾患の病態について論じる。
6/30 (火)	90 分 10:45～	対面 210	組織再生学： 放射化学	廣瀬	放射性同位体 (RI) による病態解析と臨床応用について、実用例と研究開発の動向について学ぶ。
7/7 (火)	90 分 10:45～	対面 210	組織再生学： 製剤学	笹津	褥瘡を中心とした創傷の病態とその治療について論じる。
7/8 (水)	90 分 13:15～	対面 医薬研 小ホール	毒性学	酒井	薬理作用の延長、標的外毒性、免疫介在性機序、薬物相互作用を軸に、医薬品の副作用発現機序を体系的に学ぶ。
	90 分 15:00～	対面 医薬研 小ホール	毒性学	小川	食品添加物、生活用品、大気汚染物質、農薬、重金属など、日常生活に存在する化学物質を例に挙げ、それらが人体に及ぼす影響について学ぶ。
7/14 (火)	90 分 10:45～	対面 209	組織再生学： 有機化学	高橋 (万)	顧みられない熱帯病および熱帯感染症の病態について学ぶ。
7/21 (火)	90 分 10:45～	対面 209	組織再生学： 病態生化学	輪千	結合組織と疾患の関連について論じる。
10/6 (火)	90 分 13:15～	対面 209	生化学	高橋 (勝)	病態モデルの作製とその創薬に向けた活用を考える。
	90 分 15:00～	対面 209	生化学： 糖鎖生物学	東	生命科学と創薬における糖鎖の機能、役割、意義を学ぶ。採択されるための申請書の書き方を考える。

成績評価の方法	病態生理学：講義中のディスカッション、レポート等を総合的に判断して評価する。 組織再生学：講義中のディスカッション、レポート等を総合的に判断して評価する。 生化学：レポート（100%）による。 毒性学：講義中のディスカッション、レポート等を総合的に判断して評価する。
成績評価の基準	病態生理学：講義内容に関するレポート、ディスカッションの内容から理解状況を判定し、総合的に判定する。 組織再生学：講義内容に関するレポート、ディスカッションの内容から理解状況を判定し、総合的に判定する。 生化学：講義内容に関するレポートの内容から理解状況を判定し、総合的に判定する。 毒性学：講義内容に関するレポート、ディスカッションの内容から理解状況を判定し、総合的に判定する。
教科書	必要に応じてプリントを配付する。
参考書など	特に指定しない。
その他	